



令和7年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
 「地域包括支援センター等の高齢者福祉関係機関とシルバー人材センターとの連携による認知症の人の社会参加機会の確保に向けた調査研究事業」

認知症・認知機能低下のある高齢者の社会参加を支える シルバー人材センターの取り組み

目的

- ・「認知症施策推進基本計画」では、「認知症の人の社会参加機会の確保等」が基本的施策に掲げられている
- ・高齢者に就業などの社会参加を提供するシルバー人材センター(SC)では、会員の高齢化が顕著であり、認知機能の低下がある会員の活動を支える体制作りが課題となっている

本研究では、全国のSCにおける、認知症や認知機能低下を有する高齢者の社会参加の状況とSC事務局での支援体制、高齢者福祉関係機関との連携状況を明らかにすることを目的とした

概要

全国悉皆アンケート調査



【目的】

SCでの認知機能低下を有する高齢者の社会参加と支援体制、他機関連携の実態を明らかにする

【方法】

- ・対象は全国1,306か所のSC事務局(回収714件)
- ・主な調査内容は、認知機能低下が気になる会員への配慮、認知症理解の推進状況、他機関との連携状況、SCの基本属性など

- ✓ 約9割のSCが、会員の何らかの認知機能低下を把握していた
- ✓ 定期的な面談などの健康把握体制があることや、職員が認知症に関する研修を受講しているSCほど、会員の認知機能低下の把握率や、働き方の調整の方法が多様であった
- ✓ 認知機能低下を有する会員への対応において、他機関連携があるSCは約3割に留まった

先進事例へのヒアリング調査



【目的】

他機関と連携し、認知機能低下のある高齢者の社会参加機会の確保に取り組むSCの事例を収集する

【方法】

- ・対象は、アンケート結果を基に選定した17か所のSCであり、可能な場合は連携機関担当者も同席
- ・主な調査内容は、取組の内容と今後の展望

- ✓ 日常的な声かけや相談対応を通じて会員の变化を早期に把握し、本人の意向や状態に応じて活動の仕方を調整する工夫が行われていた(例)複数人での仕事や、慣れた作業を担当してもらう、認知症の研修受講者とペアでの就業など
- ✓ 地域包括支援センターや自治体などとの連携により、見守りや情報共有、公的サービスへの橋渡しが行われており、SC単独では困難な対応を地域で補完している事例も確認された

まとめと今後の展望

- 認知症の人の社会参加機会を確保する上で、SCは重要な役割を担うことが確認された
- 一方、SC単独での対応には限界があり、地域包括支援センター等の他機関との連携の推進が必要
- ➔ 今後の展望として、以下の推進が重要であることが示唆された
 - ① 日常的な健康把握と早期の気づきの促進
 - ② SC職員・会員への認知症理解の推進
 - ③ 地域包括支援センターや自治体等との役割分担を踏まえた連携体制の構築
 - ④ 就業に限定しない多様な社会参加機会の設計

成果物

本成果の普及を推進するために、事業報告書に加えて、概要版冊子(左)とヒアリング調査の事例集(右)を作成

いずれも右記より取得可能である➔



概要版冊子



ヒアリング調査の事例集